

第5学年 国語科学習指導案

平成26年10月29日(水) 第3校時

5年生13名(男子8名 女子5名)

1. 単元名 作品を自分なりにとらえ、朗読しよう

教材名 大造じいさんとガン

2. 単元の目標

- ・話の内容に関心を持ち、自分なりの考えをもって朗読しようとする。(国語への関心・意欲・態度)
- ・自分の思いや考えが伝わるように朗読をするとともに、優れた叙述について自分の考えをまとめることができる。(読むこと(1)ア、エ)
- ・大造じいさんの心情を暗示する情景描写に関心を持つことができる。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)イ(カ))

3. 単元について

○教材について

「大造じいさんとガン」は、猟師である大造じいさんと、ガンの群れを率いる「残雪」と名付けられた一羽のガンとの何年にもわたる戦いの様子が、美しい情景描写とともに生き生きと描かれている作品である。本教材は、前書きと四つの場面で構成されている。各場面には、残雪をとらえるために毎年色々な方法で迎える大造じいさんの猟師としての様子が、一年ごとにまとめて描かれている。一つずつの出来事が丁寧に描かれ、その年の出来事に次の年の出来事が重なっていくという形式のため、時間の経過や場所の設定がつかみやすく、話の展開がわかりやすい構成となっている。はじめは残雪を「たかが鳥」と思っていた大造じいさんが、その知恵と頭領らしい態度に心を打たれるまでの心情の変化を深く読み取ることができる。細やかな行動描写や心理描写、情景描写をもとにして大造じいさんの残雪への気持ちを読み取るとともに、気持ちを表すのにふさわしい表現の仕方について考えて朗読させる。

○児童について

本学級は、男子8名女子5名である。明るくにぎやかで、意欲的に授業に取り組む児童が多い。授業中も、様々な場面で活発に意見が出る。しかし、数回の音読だけでは、本文の内容を正確に読み取ることができず、自分の考えや意見を持つところまでいたらない児童の姿がある。一学期には、「あめ玉」というお話でグループごとに工夫して音読劇に取り組んだ。本文の内容を読み取りそこから人物像等を想像し、音読で表現をするというものであったが、十分に表現しきれない児童が多かった。思いや考えが伝わる音読をするためには、本文を正確に読み取り、読み取った内容について自分の考えを持つことが必要である。まずは正確に読み取り自分の考えを持つ力を身につけさせたい。

○指導について

これまでに、一文読みや段落読みなど、様々な形で繰り返し音読を行ってきた。音読を重ねる中で徐々に内容が理解でき、少しずつ正確に読み取ることができるようになっていった。また、文中に出てくる言葉の意味がわからないから理解ができない、という児童の姿が見られるので、一学期当初から文中の語句の意味調べを繰り返し行ってきた。そのことにより、語句の意味が分かり読み取りがしやすくなった。しかし、「なんとなく意味がわかっている気がして調べない」という語句も多かった。一度の意味調べで終わるのではなく、本文を読んでいく中でわからない語句がでてきたら、随時、意味を調べさせていきたい。

読むことについては、「はじめ・なか・おわりで読む」「起承転結で読む」など、これまでに学習した内容は身につけている児童が多い。しかし、話の長さが長くなるにつれて、「今聞かれていることについて考えるには本文のどこを読めば良いのか」という段階で手が止まってしまう児童も見受けられる。そこで、前述したように繰り返し音読を行うとともに、一学期の途中からは考える際には本文に線を引きながら考えるようにさせてきた。それにより徐々に読み取ることができるようになってきたが、まだ十分とは言えないので今後も継続的

に取り組んでいきたい。

今回の単元では、文中の情景描写や行動の描写に描き出された大造じいさんの気持ちを丁寧に読み取り、読み取ったことについて自分なりに感じたことや考えたことを大切に、感じたことを音読で表現するための工夫を考えさせ、朗読大会へとつなげたい。

4. 評価規準（単元全体）

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・話の内容に関心を持ち、自分なりの考えをもって朗読をしようとしている。	・本文についての自分の考えや思いが伝わるように朗読をすることができる。(1) ア ・登場人物の心情を、会話や心情表現、行動を表す文・語句に着目して読んでいる。(1) エ	・大造じいさんの心情を暗示するような情景描写に関心を持つことができる。(1) イ (カ)

5. 指導と評価計画（全10時間）

次	時	学習活動	指導上の留意点	具体的な評価規準
一	1	・物語を読んで初発の感想をまとめる。 ・人物像や設定場面の展開をとらえる。	・物語を読んで感じたことを自由に書かせる。	・物語に興味を持ち、感想をわかりやすくまとめようとしている。(関)
二	1	・新出漢字と語句を調べる。	・必ず押さえない語句については、教師から提示する。	・漢字の読み書きや言葉の意味を理解している。(言)
	2	・第1場面より、うなぎつりばり作戦の時の大造じいさんの気持ちやその背景の情景を読み取る。	・本文に着目して、気持ちや情景を読み取らせる。	・登場人物と描写、背景を読み取っている。(読)
	3	・第2場面より、タニシ作戦での大造じいさんの気持ちやその背景の情景を読み取る。	・本文をもとに、大造爺さんの残雪に対する執念を読み取らせる。	・大造じいさんの残雪に対する執念を読み取っている。(読)
	4	・第3場面より、おとり作戦での大造じいさんの気持ちやその背景の情景を読み取る。	・大造じいさんの心の余裕がわかる文に着目させる。	・おとりのガンを使うことによつての大造じいさんの心の余裕を読み取っている(読)
	5	・第3場面より、残雪のすごさについて読み取る。	・残雪のすごさが表現されている文に線を引かせる。	・残雪のすごさについて本文から読み取っている(読)
	6	・第3場面より残雪に対する大造じいさんの気持ちの変化やその背景の情景を読み取る。	・自分の考えのもととなる文を本文から見つけ、線を引かせる。	・大造じいさんの残雪への見方が大きくかわる様子を読み取っている。(読)
	7	・第4場面より残雪を見送る大造じいさんの気持ちを考え、その背景の情景を読み取る。	・残雪を見送る大造じいさんの気持ちが表れている文に着目させる。	・大造じいさんの変容の核心を読み取っている。(読)
	8	・大造じいさんの残雪に対する心情の変化を振り返り、作品の主題について考える。	・各場面での大造じいさんの気持ちを振り返り、その変化を板書にまとめる。	・大造じいさんの変容を情景描写や残雪の行動を手掛かりに読み取っている。(読)
三	1	・朗読大会をしよう。	・自分が一番心に残った場面について、その場面での大造じいさんの気持ちや残雪の様子が伝わる朗読の方法を考えさせる。	・自分なりの考えや思いを朗読で表現し、伝えることができる。(読)
四	1	・椋鳩十の世界にふれよう。	・椋鳩十の作品から一つの作品を選び、紹介カードにまとめさせる。	・椋鳩十の作品に関心を持つ。(関) ・紹介カードにまとめることができる。(言)

6. 本時案 (7/11)

(1) 本時の目標

- ・情景や会話などを手がかりに、大造じいさんの気持ちの変化を読み取ることができる。

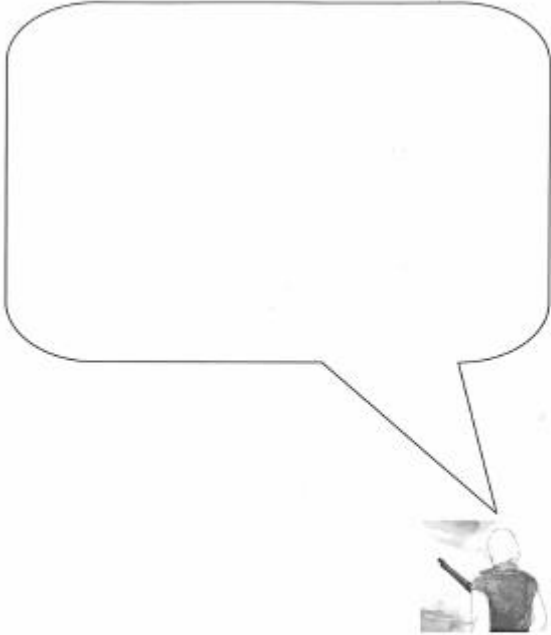
(2) 展開

学習活動	指導上の留意点	◆支援 ☆評価規準
1. 第3場面を全員で音読する。 2. 残雪のすごいところについて振り返る。 3. 本時のめあてを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習内容を思い返しながら音読させる。 ・前時で本文に線を引いた場所を確認させる。 	◆本文の内容を提示する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 残雪をうつことができなかつた大造じいさんの気持ち考えよう。 </div>		
4. 残雪をうてなかつた大造じいさんの気持ちを考え、ワークシートに記入する。 5. 自分の考えの理由となる文を、本文から見つける。 ・鳥とはいえ、いかにも頭領らしい、堂々たる態度のようでありました。 ・最期の時を感じて、せめて頭領としてのいげんをきずつけまいと努力しているようでもありました。 6. 自分の考えと、理由となる文を発表する。 7. 大造じいさんの気持ちの変化を確認する。 8. 本時の学習をふまえ、本文を朗読する。 9. 次回予告	<ul style="list-style-type: none"> ・ここでは、自由に自分の考えを書かせる。 ・自分の考えの理由となる文を本文から探し、線を引かせる。 ・他の人と似た意見であっても、自分の言葉で発表させる。 ・互いの意見を聞き合い、考えを深めさせる。 ・今までの学習を振り返らせる。 ・大造じいさんの気持ちの変化をふまえて、朗読の仕方を考えさせる。 ・次回第4場面の読みをすることを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆自分が思うことを書いてよいと声かけをする。 ◆理由が本文に見つからない場合、考えが本文に基づかない自分の想像ではないかを確認させる。 ☆叙述をもとに、気持ちの変化とその理由を読み取ることができる。(ワークシート) ◆他の人の意見を聞き、書き足しても良いと声かけをする。 ◆必要に応じて個別での指導を行う。

<ワークシート>

大造じいさんとガン⑦ 椋鳩十作 名前()

●残雪をうづめてできなかった大造じいさんの気持ち。



●大造じいさんの残雪への気持ちの変化。
〔これまで〕

〔現在〕